優良勤労青少年県知事表彰

㈲多田工務店

菊池 宏太（こうた）さん 25歳＝上郷町＝

遠野高等職業訓練校で建築技能を習得し、修了後は建築大工２級の資格を取得。勤勉な態度が評価され受賞しました。菊池さんは「先輩の技術を身に付け、これからも仕事に励みたい」と意気込みを語りました。

環境保全功労者

環境大臣表彰

葛西 四朗（しろう）さん 88歳＝綾織町＝

本市の子どもたちを対象に環境学習会などを開き、長年環境教育や環境保全活動に尽力したことが評価され受賞しました。葛西さんは「子どもたちのため、これからも頑張っていきたい」と笑顔で思いを語りました。

東北高校選手権大会２位！

釜石高校ボクシング部

太田 雪月花（ゆづか）さん（３年、遠野東中出身）

ボクシング競技女子フライ級の太田さんは県高総体で優勝、第71回東北高校選手権大会では準優勝に輝きました。太田さんは「大会を通して培った経験を、次の試合に生かしたいです」と決意を新たにしました。

ボクシング女子県１位！

釜石高校ボクシング部

金野 綾乃（あやの）さん（２年、遠野東中出身）

高総体ボクシング競技女子ライト級で金野さんが優勝を果たしました。金野さんは「女子ボクシングはインターハイ種目にはないですが、練習で頑張ってきた分、優勝できて嬉しいです」と優勝の喜びを語りました。

東北総合通信局長表彰

医療・健康をはじめとした各分野でＩＣＴ（情報技術）活用の取り組みを推進しているとして、本市が東北総合通信局長表彰を受賞しました。６月１日の記念式典では、本田市長が東北総合通信局長から表彰状を受け取りました。

▲表彰状を受け取る本田市長㊧

耕作放棄地発生防止・解消活動表彰

市農業委員会

農地のパトロールや遊休農地の一部に菜の花を植えて再生利用を促すなどの活動が評価され、最高賞に次ぐ農村振興局長賞を市農業委員会が受賞しました。佐々木会長は「委員の活動が認められた結果」と喜びました。

各種表彰

※敬称略

◆平成29年度市中学校総合体育大会 ※優勝のみ

【バスケットボール】▽男子＝遠野東 ▽女子＝遠野

【軟式野球】▽男子＝遠野

【バレーボール】▽男子＝遠野東 ▽女子＝遠野東

【ソフトテニス】▽女子団体＝遠野東 ▽男子個人＝中竹大樹（だいき）、臼井涼（りょう）（遠野） ▽女子個人＝細川愛奈（まな）、佐々木結衣（ゆい）（遠野東）

【卓球】▽男子団体＝遠野西 ▽男子個人＝菊池悠太（ゆうた）（遠野） ▽女子個人＝佐々木希郷（ききょう）（遠野西）

【剣道】▽男子団体＝遠野 ▽女子団体＝遠野 ▽男子個人＝佐々木魁斗（かいと）（遠野） ▽女子個人＝吉田涼香（りょうか）（遠野）

キラッと輝く遠野人を募集！

スポーツや文化活動などで活躍した人の情報をお寄せください。
「キラッと、遠野人。」で紹介します。

紹介する成績の目安

各種大会やコンクールなどで、おおむね▷県レベルで１位（最優秀賞）以上▷全国入賞―を満たす人

紹介する対象者の目安

①市内在住の人、または市内に通学・勤務する人

②市外の学校に在籍する本市出身者（紹介のあった場合のみ掲載）

◎問い合わせ
市経営企画部広報担当（☎62-2111内線233）

最高の舞台へ

インターハイ出場者紹介

７月28日から宮城県などを会場に開幕されるインターハイ（南東北総体）に出場を決めた、市内出身の高校生を取材しました。
※敬称略

目標は攻守一体のボクシング

黒沢尻工業高校 ボクシング部

菊池 弥寛（やひろ）

（３年、遠野東中出身）

６月１日から４日間、釜石市で行われた県高総体ボクシング競技ライト・ウェルター級で２度目のインターハイ出場を決めた菊池選手。大会では、得意のジャブとストレートで攻めのボクシングを貫き、勝利を重ねた。昨年は初戦敗退し、悔しい思いをした全国大会。その悔しさをバネに、帰宅後も自主トレを欠かさず、厳しい練習に打ち込んできた。菊池選手は「負けた試合は、守りの甘さが原因だった。全国では攻守一体のボクシングでベスト８を目指す」と昨年の雪辱を果たすため、闘志を燃やす。

伝統の堅守で全国に挑む

遠野高校サッカー部

県高総体の決勝で、宿敵の盛岡商業と延長の末１点差で競り勝ち、４年ぶり27回目の栄冠に輝いた。高原優介主将（３年）は「優勝できたが、自分たちの持ち味を生かせる試合ができなかった」と決勝の様子を振り返る。延長前半６分に１点をもぎ取ったが、延長後半では退場者を出し、１人少ない状態での戦いとなった。試合終了までの９分間、盛岡商業の猛攻を耐えぬき、全国への切符を手にした。高原主将は「全国のチームとどれだけ戦えるのか、自分たちの実力を試す場にしたい。まずは初戦突破が目標」と意気込みを語った。

県代表として恥じない戦いをする。

釜石高校空手道部

多田 栞（しおり）

（２年、遠野東中出身）

５月27・28日に県営武道館で開催された県高総体空手道競技で、多田選手は団体組手の部で優勝に貢献。さらに個人組手の部でも優勝を勝ち取った。体格は小柄だが、それを補って余りあるスピードと、こぶしを戻す引き手などの細部の所作で他の選手を圧倒する多田選手。初戦こそ緊張で動きが鈍かったものの、試合をこなすごとに従来の動きを取り戻し、インターハイへの出場権を獲得した。多田選手は「全国はレベルが違う。岩手県代表として恥じない戦いをしたい」と全国へ向けて気合を入れた。

目標は日本一。

東海大山形高校 空手道部

浅沼 壮真（そうま）

（３年、遠野西中出身）

６月４日に山形県天童市で開催された山形県高総体の空手道競技団体組手の部で、浅沼選手が２度目のインターハイ出場を決めた。遠野を離れ、名門である東海大山形高校へ空手留学をして３年。対人練習による間合いの取り方や相手選手との駆け引きを徹底的に鍛えてきた。試合では、先制攻撃による先取を積極的に狙い、得意の上段突きでポイントを獲得し、チームの勝利を支えた。浅沼選手は「周りの人に支えてもらってここまで来れた。目標は日本一。インターハイまでに集中力と闘争心を高めて挑みたい」と抱負を語った。